

# 苫小牧東ロータリークラブ

TOMAKOMAIEAST ROTARYCLUB



## ～会報～ 11月号

例会日 木曜日 12:30 第2例会 18:00  
 例会場:グランドホテルニュー王子 TEL 31-3111  
 ホームページ: <https://toma-east-rc.com/>

「苫小牧東ロータリークラブ会長方針」  
**“共に考え、共に行動しよう”**

～ロータリー財団月間・世界インターアクト週間～



### 【11月プログラム予定】

- 第1例会(6日) 会員卓話 山田亮太 会員
- 第2例会(13日) 夜間移動例会
- 第3例会(20日) ゲスト卓話  
 2025-2026年度国際ロータリー第2510地区  
 ロータリー財団委員会 委員長 石丸修太郎様
- 第4例会(27日) ゲスト卓話 合同会社KD  
 代表 木戸 英 様

### ～今月の誕生祝い～

### ～今月の創業祝い～

#### ニコニコの内容

#### 出席数・率

財団寄付BOX	13,484円	11/6	24名 出席率 85.71%
米山BOX	13,421円	11/13	20名 出席率 74.7%
親睦BOX	17,422円	11/20	19名 出席率 67.86%
ニコニコBOX	108,141円	11/27	20名 出席率 74.07%
<b>ニコニコ</b>			
<b>総額</b>	<b>152,468円</b>		



旭日双光章の受賞、おめでとうございます

### 【12月プログラム予定】

～疫病予防と治療月間～

- 第1例会(4日) 会員卓話 木村美砂江 会員
- 第2例会(11日) 夜間移動例会(クリスマス・忘年会)
- 第3例会(18日) 会員卓話 南沢雄二 会員
- 第4例会(25日) 会員卓話 緒方康人 会員

担当	<ul style="list-style-type: none"> <li>●会長 南沢 雄二</li> <li>●会長エレクト 山田 亮太</li> <li>●幹事 緒方 康人</li> <li>●会計・副幹事 堀 暢希</li> <li>会報雑誌・広報委員 鍋島 芳弘</li> </ul>
事務局	苫小牧市表町1丁目4-5 日商連ビル5階 月～木曜日の10:00～16:00 Tel 0144-35-3344 Fax 0144-33-7744 e-mail: east_toma2510@song.ocn.ne.jp 事務局 松岡かおり

## 会長挨拶

嬉しい報告がございます。11月3日の文化の日に、当クラブの平田幸彦ガバナー補佐が、長年にわたる地域社会への貢献により「旭日双光章」を受章されました。ロータリアンとしての奉仕、そして地域に尽くしてこられた功績が国から表彰されたことは、当クラブにとっても大きな誇りです。心よりお祝い申し上げます。



今月11月は「ロータリー財団月間」です。世界の人道支援やポリオ根絶活動、奨学金制度など、ロータリーの大きな活動を支えているのが財団です。その意義を改めて感じながら、できるところからの支援を続けていきましょう。

## 会員卓話：山田亮太会員

次年度の会長エレクトである山田会員は、クラブにおける「和（会員同士、役員間、職業上の繋がり）」を重要視したいという考えを示しました。その背景として、先日のポリオ根絶活動の際に会員から「楽しかった」という感想があったことに触れ、義務感ではなく、会員が心から「楽しい」と感じられる活動や例会を目指したいという意欲を語りました。

山田会員は、本日の卓話テーマを「次年度のクラブ運営の方向性を全員で考える時間」と設定し、各テーブルに年間行事カレンダーを配布した上で、以下についてディスカッションをお願いしました。

- ・現状のスケジュールの良い点・悪い点
- ・変更すべき点
- ・今後やってみたいこと



ディスカッションの後、各テーブル代表者より以下のような意見が発表されました。

### ・例会形式について

「Zoom（オンライン）例会は必要ないのではないか」「やはり直接顔を合わせるのが一番である」という、対面重視の意見が多く出されました。

### ・夜間例会・移動例会について

夜間例会におけるゲーム等の余興準備が会員の負担になっているという指摘がありました。回数を減らしてでも、落語家を呼ぶなど内容を充実させた一度の大きなイベントにする案や、会場は定例会場（グランドホテル）良いという意見が出ました。移動例会については、クリスマスなど季節行事に合わせて実施する案や、かつて実施していた「バス旅行」や「温泉一泊旅行」などを懐かしむ声があり、ワイナリー巡りや紅葉狩りなど、大人の遠足的な活動への要望が出ました。

### ・親睦・レクリエーションについて

ボウリング大会は参加者が減少しており、参加しやすい「パークゴルフ」へ変更する案や、楽しみを共有できる「美味しいものを食べる」といった食事会形式の方が、会員の満足度が高いのではないかという意見が出ました。

最後に山田会員は、会員の皆様から多岐にわたる率直な意見が出されたことに感謝を述べました。今回出された多くのアイデアや改善案を次年度のクラブ方針や事業計画に反映させ、より魅力的なクラブ作りにつなげていくという決意をもって、卓話は締めくくられました。

# 11月13日(木) 第2例会 夜間移動例会

## 会長挨拶と活動報告

南沢会長より、今年度も中盤を迎え、これまでのクラブ運営や奉仕活動への積極的な参加に対して、会員へ感謝が述べられました。

次いで、10月29日(日)に「道の駅ウトナイ湖」にて実施した「ポリオ撲滅募金キャンペーン」の報告と、入会候補者として本日のゲストである有限会社EZOコーポレーション代表取締役の長沼啓示様の紹介が行われました。会長は同キャンペーンに参加した会員への感謝を述べるとともに、本日の夜間移動例会がゲストの長沼様を交えて、有意義で楽しいものとなることを祈念してお話を締めくくりました。

### <ポリオ撲滅募金キャンペーンの活動報告>

- ・当日は天候にも恵まれ、清々しい秋晴れの下での活動となりました。国際ロータリーが長年取り組んできたポリオ根絶運動は、あと一歩という重要な局面を迎えています。私たちはその最後の一步を後押しすべく、来訪者の皆様へ募金を呼びかけました。
- ・会員一同、「End Polio Now」と記された赤いTシャツを着用し、道行く方々にチラシを手渡しながら協力を仰ぎました。菅野会員にはテントを無償で貸し出しただき、設営には苦労もありましたが、会員皆で力を合わせて準備を行いました。また、赤・青・白の風船や、熊谷会員にご用意いただいたお菓子を子供たちに配るなど、会場は笑顔に包まれました。
- ・来場者より総額30,500円の温かい募金が寄せられ、この浄財は、世界中の子供たちの未来を守るポリオワクチンのために、既に全額ロータリー財団へ送金しています。青空の下、力を合わせて取り組んだこの活動は、会員同士の親睦を深め、ポリオ撲滅への思いを一つにする素晴らしい機会となりました。
- ・準備から当日の運営まで協力した会員へ、重ねて感謝いたします。

### <ゲスト紹介>

- ・有限会社EZOコーポレーション代表取締役の長沼啓示様は、不動産管理・仲介業を中心に、障がい福祉事業(グループホーム等)や飲食事業(ラーメン「蓬來」等)を展開されています。
- ・自己紹介では、事業内容や南沢会長との縁について語られ、会員から温かい拍手で迎えられました。

懇親会は菅野会員による乾杯の発声でスタートしました。菅野会員は自身の蕎麦店経営にまつわるユーモラスな話題や、今回のテント提供の件を交えて会場を和ませました。懇親の場では、新旧会員が入り混じり、ゴルフや健康の話題、クラブの歴史や過去のエピソードなどで大いに盛り上がりました。特に、ゲストの長沼様を囲んでの会話や、会員同士の気さくな冗談が飛び交うなど、終始アットホームで活気に満ちた交流が行われました。

最後に、長岡会員は、当クラブの和やかな雰囲気と20年続く歴史について触れ、長沼様を歓迎する言葉とともに一本締めで例会を締めくくりました。

**長沼様、参加いただき、ありがとうございました。  
ご入会を、楽しみにしております!**

## 🗝️ 会長挨拶

はじめに、「11月も下旬となり、師走が近づき寒さも増してまいりました。皆様におかれましては体調管理に十分ご留意ください」と述べました。

次に今週、「苫小牧北ロータリークラブ例会にて当クラブのポリオ撲滅キャンペーンやクリスマスドロップ作戦」の取り組みを紹介させていただきました。北クラブの皆様からは多くの温かいお言葉を頂戴し、クラブ同士の絆と連携の大切さを改めて実感する機会となりました」と報告しました。

最後に、「12月4日から8日の日程で、自分と山田会長エレクトの2名でグアムへ赴き、クリスマスドロップ作戦に参加します。戦没者の慰霊も心を込めて行い、皆様の思いも一緒に届けてきます」と締め括りました。

## ゲスト卓話：ロータリー財団について

2025 - 2026年度国際ロータリー第2510地区ロータリー財団委員会  
委員長 石丸修太郎 様

ロータリー財団の歴史は、1917年に遡ります。アトランタ大会において、第6代RI会長アーチ C. クランフ氏が「世界でよいことをするために基金を設けるべきだ」と提案したのが始まりです。この時の最初の寄付金は、大会の剰余金であるわずか「26ドル50セント」でした。その後、1928年に正式に「ロータリー財団」と命名されましたが、当初は資金がなかなか集まりませんでした。財団が大きく動き出した転機は、1947年のロータリー創始者ポール ハリスの逝去です。彼を追悼するために世界中のロータリアンから多額の寄付が寄せられ、その資金を原資として、最初の事業である大学院生向けの奨学金プログラム（フェローシップ）が開始されました。



ポリオ撲滅活動（ポリオ・プラス）において特筆すべきは、「ビル&メリンダ・ゲイツ財団」との提携です。現在、ロータリーがポリオ撲滅のために1ドルを寄付すると、ゲイツ財団がそれに2ドルを上乗せして寄付する（2倍マッチング）という画期的な仕組みが運用されており、資金規模が大幅に拡大しています。

ロータリー財団の資金構造には主に次の3つの柱があります。

- 年間基金: メインとなる基金です。寄付された資金は3年間運用された後、その元本と運用益が地区に還元されます（シェアシステム）。これが地区補助金やグローバル補助金の原資となります。
- ポリオプラス基金: ポリオ撲滅活動に特化した基金です。
- 恒久基金: 寄付された元本は手を付けずに維持し、その運用益のみをプログラムに充当する基金です。遺贈寄付などがこれに含まれます。

ポリオ撲滅活動は「あと少し」と言われながら長期間続いており、会員の間にも疲労感や関心の低下が見られることが懸念されています。石丸様は最後に、「酔っ払って気が大きくなった時でも構わないので、ロータリー財団への寄付を思い出してほしい」と会場の笑いを誘いつつ、ポリオ根絶と世界的な奉仕活動を維持するために、引き続きの支援と寄付を強く呼びかけられました。

## 👉 会長挨拶

今月は「ロータリー財団月間」であり、「世界インターアクト週間」でもあります。私たちが日々行っている奉仕活動や募金、世界的な教育・医療支援、そしてポリオ撲滅運動などが、大きな活動へつながっていることを感じる月です。

活動報告としましては、去る11月18日、苫小牧北ロータリークラブ様にて卓話の機会をいただき、当クラブのポリオ根絶キャンペーンやクリスマスドロップ作戦についてプレゼンテーションを行いました。当クラブの魅力を外部に伝える良い機会となりました。また、来る12月には、グアムにて実施されるクリスマスドロップ作戦に参加予定です。これは地域と世界をつなぐ非常に意義のある奉仕です。帰国後の報告をぜひ楽しみにして下さい。

また、本日はゲスト卓話として、合同会社KD代表の木戸英（あや）様をお迎えしております。有意義な例会となりますよう、よろしくお願いいたします。

## ゲスト卓話 合同会社KD代表 木戸 英 様

木戸様は、2024年4月、苫小牧にて合同会社KDを創業されました。まだ7名の小さな会社ですが、「学びで未来を拓く」をビジョンに掲げ、学んだことが成果につながり、次の挑戦へと循環していく環境づくりを大切にしています。

事業の柱は、大きく分けて以下の3つの事業であり、地域の人材不足解消と求職者のスキルアップを同時に実現する仕組みとなっています。

### 1. CBTテストセンター事業

パソコンを使って資格試験（マイクロソフト・オフィススペシャリスト、ITパスポート、簿記など）を受験できるテストセンターを運営しています。

これまで苫小牧の受験者は、試験のために札幌まで行く必要があり、移動の時間やコストが負担となっていました。地元で受験できる環境を整えることで、挑戦のハードルを下げ、地域内でのスキル証明とキャリアアップを支援します。

### 2. 職業訓練事業（求職者支援）

現在、最も力を入れている事業です。求職者を対象に、パソコンスキル、生成AI、簿記、ビジネスマナーなどを短期間で集中的に指導し、「即戦力」となる人材を育成しています。受講生は20代～60代（平均年齢35歳）で女性が8割を占めますが、男性の受講も増えています。

ここでの大きな特徴は、「企業への紹介料が無料」である点です。人材紹介会社ではないため、企業はコストをかけずに、基礎教育を受けた意欲ある人材を採用できます。現在受講中のクラスは1月15日に修了予定であり、採用を検討中の企業様に活用いただくよう、お願い申し上げます。

### 3. 企業研修プログラム

助成金を活用した社員教育の提案です。「採用したがパソコンが苦手」、「業務効率を上げたい」といった企業の悩みに対し、実務に特化した研修を行っています。研修費用の最大75%が国から助成される制度を活用し、企業のコスト負担を抑えながら、従業員のスキルアップと定着率向上をサポートしています。

最後に木戸様は「未経験者をゼロから育てる企業の負担を減らし、意欲ある人材とのマッチングを行うことで、地域の雇用活性化に貢献したい」と力強く語られました。

